

日本経済新聞

朝刊・夕刊

LIVE

Myニュース

日経会社情報

人事ウォッチ

NIKKEI Prime ▾



モニターには操縦席の中から見た景色や重機の外観が映し出されている

解体業を手掛ける三同建設（大阪市）は遠隔操作できる重機を導入した。建設現場に建てたプレハブの中の操縦席からショベルカーを操作する。遠隔重機の導入は解体専門業者としては全国初の取り組みとなる。来年には本社から遠隔操作できるようにする。働き方の選択肢を増やし採用にもつなげる。

9月上旬の大阪市大正区の工場跡地では、先端が動物のあごのようになったショベルカーがコンクリートのがれきを砕いていた。運転席には誰も乗っていない。これを操縦しているのは、同じ敷地内のプレハブにいる女性社員だ。

三同建設が導入したのは、コベルコ建機の遠隔操作システム「K-DIVE」。ショベルカーには複数のカメラが搭載されており、操縦席の前にある7つのモニターに周囲の映像が映るようになっている。プレハブの操縦席の前にあるのは実際の建機のコントローラーと同じものだ。座席も重機の傾きにあわせて全方向に傾く。